

「愛岐トンネル群」国内最多

旧国鉄中央線 多治見—春日井に13基残存

総れんが、1900年開通 NPOが確認

春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」は13日、明治期に開通し、1966（昭和41）年に廃線となった多治見市と愛知県春日井市を結ぶ旧国鉄中央線の約8キロの区間に残る13基のトンネルについて、現地調査などの結果、いずれも明治期の総れんが造りだと確認できた、と発表した。（小森直人）

明治期の姿をとどめ、総れんがのトンネル数は国重要文化財の群馬県碓氷峠の11基を抜き、総延長2675メートル、碓氷峠の約1.5倍。再生委は「国内最多の集積。重文に匹敵する価値がある」と指摘している。

再生委によると13基は名古屋—多治見間が開通した1900（明治33）年までの4年間に建設。約8キロの区間に使われた赤れんがはナゴヤドームに敷き詰めて35面分に相当する約1890万個で、ほとんどがトンネル整備に用いられたという。

13基の入り口は下部の石積みやれんが積みデザインが異なっており、再生委多治見支部世話人の佐野宏二さん（70）は「技師や職人が持てる技術を主張した証だ。保存状態も良い」と強調する。

6基は春日井市、7基は多治見市にあるが、いずれも普段市民は立ち入れない。再生委は春日井市内の4基を含む廃線区間を、所有する企業から買い取ろうと寄付を募っている。

11月23（28日）にはこの区間を一般に公開する。JR中央線定光寺駅で下車。見学料100円。問い合わせは再生委事務局、電話090（4860）4664。



明治期に造られたという赤れんが製の13基が現存する旧国鉄中央線の愛岐トンネル群。11月に一部を公開する。愛知県春日井市内（愛岐トンネル群保存再生委員会提供）